

建築・環境学部 建築・環境学科 学びの流れ

カリキュラム・ポリシー (概要)

建築・環境学は狭い意味での工学技術の一分野ではなく、ひとつの全体性を備えた総合的な学問領域であり、その多面性から本学部・学科は5つのコースを設けているが、教育課程として1つの「学びの流れ」がコース共通に流れる特徴ある編成としています。

この流れは1・2年次の建築設計製図、3・4年次から分かれるコース毎のスタジオ(卒業研究を含む)により構成され、学部共通に1年次より用意された共通科目及び専門科目の個別的科目群を総合化する場として位置付けられています。ここでは学生第一と考え、学生一人ひとりの多様な資質や能力に肌理細やかに対応する少人数制指導により、設計を中心とした実践的な学修を行います。

建学の精神、多文化理解につながる教養、興味・関心の
 [共通科目] ある事柄について幅広く学び、「総合英語」を中心とした語学を通して、コミュニケーション能力を身につける。

[専門基幹科目] 数学、物理等の基礎を理解し、活用方法を学ぶ

〈個別専門学修の場〉

[コモン] 図の表現、基礎的数学・物理、CADの利用方法、法規、実労働の体験を通じて、建築・環境学を学ぶための素地と実践を学ぶ

[デザイン分野] 計画・設計に必要な幅広い素養を身につけ、デザイン、構造、材料・施工、環境・設備の4分野を総合的・統合的にとらえる能力を培う。社会、地域や建物を実感すること、体験することを通じ、自身でそれらを分析し、望ましい建築空間として提案する力を育む。

[構造分野] 建築物の構造、材料に関わる知識を得るための科目群により、各種構造材料に対する構造計画、構造設計手法、耐震補強の手法を理解した上で、耐震性、長寿命化などを十分に反映した安心・安全な建物の設計、提案する能力を育む。

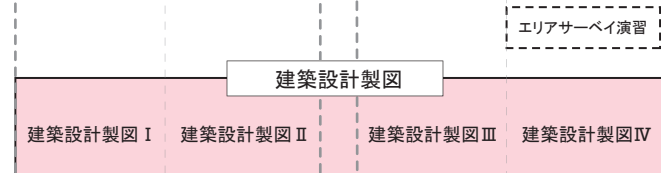
[材料・施工分野] 建築物の材料・施工、維持管理に関わる知識を得るための科目群により、維持管理計画、材料・施工計画を理解した上で、長寿命化などを十分に反映した安心・安全な建物の設計、提案する能力を育む。

[環境・設備分野] 建築に関連する環境要素には、熱・光・空気・水・音などがあり、これらを調整して快適かつ環境負荷を抑えた建築・設備技術について学ぶ。また、その技術を応用し、人々が安全で快適な生活が営める建築空間を創造できる幅広い環境共生デザイン能力を身につけていく。

- 1年次
 - 建築学各分野の入門・基礎知識
 - 製図法と設計の基礎
- 2年次
 - コース専門の前段階に必要な基礎知識
- 3年次
 - コースの専門的知識・技術
 - 実践的なスタジオを中心
- 4年次
 - コースで身に付けた内容の総合
 - ゼミナールの成果を卒業研究で発展

建築・環境学の基礎

〈総合化の場- 少人数による設計実践学修〉

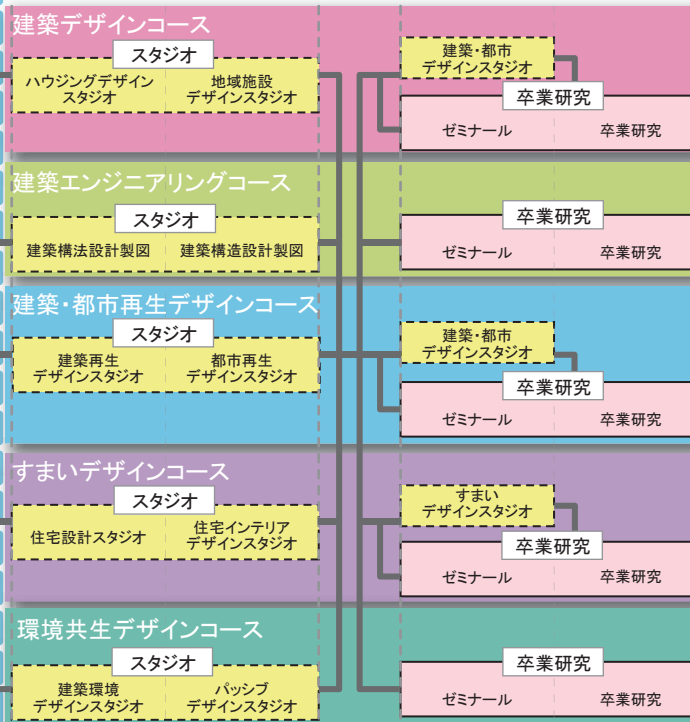


総合英語 ドイツ語 フランス語 中国語 ロシア語 スペイン語 ロシア語 など
 キリスト教 KGUかながわ学※
 文学 経済学 哲学 歴史学 社会学 法学 心理学 など

微分・積分 線形数学 代数幾何 統計学 物理 化学 生物 情報 など

科目	1年次	2年次	3年次	4年次
理工学概論				
ドローイングWS 文系のための建築数学・物理 基礎数学 I CAD演習 I		モデリングWS 基礎数学 II	ビルディングWS CAD演習 II	CAD演習 III
建築計画・デザイン基礎		建築計画 I サウンドスケープ デザイン	建築計画 II 建築デザイン論 家族論 ランドスケープ論 日本建築史 西洋建築史	建築再生計画論 すまいデザイン論 インテリアデザイン 不動産学基礎 都市形成史 近代建築史
フレームの力学基礎		フレームの力学 I 静定フレーム演習	フレームの力学 II 不静定フレーム演習 建築構造計画 建築耐震工学概論	フレームの力学 III 鉄骨構造 鉄筋コンクリート構造 建築振動学 建築構造実験 構造解析学 構造設計 I
建築生産・材料基礎		建築材料学 I 建築構法 I	建築材料学 II 建築構法 II 建築材料実験	インテリア材料・施工 建築施工学 I 建築病理学 建築施工学 II ファシリティ・マネジメント
建築環境・設備基礎		建築熱環境 建築光・音環境	建築水環境 建築空気環境	電気設備論 都市環境 建築設備計画 パッシブデザイン 建築環境・設備実験
建築法規 A			建築法規 B	
測量学及び実習				
アーバンデザイン ファニチャーデザイン				都市・地域計画論
住居史 建築理論史				
基礎・地盤力学 地震工学概論 構造設計 II				
施工演習				
建築環境・設備応用				
環境設備リニューアル 建築設備・設計演習 環境シミュレーション 資源リサイクル 建築環境エネルギー				
環境設備維持保全				

コース専門学修



コース毎のディプロマポリシー

- コースDP1 建築に対する幅広い基礎的な素養を身につけると共に、構造、材料、環境・設備等の分野も総合的に考え、建築の計画・デザイン(設計)を実践できる感性と能力を有すること。
- コースDP2 建築構造や材料・施工に関わる設計・施工、開発、維持管理といったエンジニアリング技術を専門とできる知識と実践力を身につける。
- コースDP3 都市計画・地域デザインやまちづくり分野、また都市や建物の再生計画、リフォーム、コンバージョンなどを専門とできる知識と実践力を身につける。
- コースDP4 すまいに関する知識をもとに、戸建住宅や集合住宅などの様々な用途の住宅の計画と設計やインテリアと家具のデザイン、さらには住居後のメンテナンスとリフォームに関する分野まで幅広く携わることができる知識と実践力を身につける。
- コースDP5 建物の環境・設備に関わる設計・施工、開発、維持管理といったエンジニアリング技術を専門とする分野、さらにそれらの技術と建築設計とを総合的に捉えてデザインする分野に携わることができる知識と実践力を身につける。

建築・環境学部ディプロマポリシー (概要)

建築・環境学の総合的かつ全体的な学術体系を基盤とし、デザインとエンジニアリングの統合、環境との共生、既存の社会資源の維持・活用・再生、そして人々の持続する生活の質の向上など、現在の共生社会が必要とする諸課題を追究し、それに応えることができる人材を育成するために用意された諸科目の修得を求めます。

具体的には、

- 建築の意匠、歴史、構造、材料、環境・設備に関する基礎的知識を理解している
- 建築物を設計する知識に基づいて、図面を描くことができる
- 建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している
- 上記コース毎にDP(diploma policy)を身につけている

必修科目 ※ 選択必修科目
 コース必修科目